

「新しいいのちを産み育てる ―知っておきたい周産期の話―」 Q&A集

【Q】周産期の母子の心理状態と、子どもの発達障害との関係について教えてください。

【A】ご質問ありがとうございます。

まず、現時点で主として育児や教育現場で問題となっている「こどもの発達障害」ですが、感染症の予防あるいは、治療が進んできた小児科医療の中では、特に総合病院小児科外来の中で相談が最も多いケースになっています。

アスペルガー症候群をはじめとする自閉症スペクトラム障害、また多動性衝動性、集中の困難さを特徴とする注意欠陥多動性障害(AD/HD)などが、よく知られています。これらの発達障害は、世の中に認知されることにより、一見どんどん増加しているようにさえ思えますし、このような特性をもつ子ども達は、親のしつけ方、育て方が問題のように思われがちですが、そうではありません。そのような特性をもともと持った子ども達が、複雑化した社会環境、養育環境の中で、よりその「生きにくさ」が増強されたときに「障害」となってしまいうわけです。その意味で、出生直後の母子の心理状態と発達障害の発症を、全くイコールのように関連付けられません。

一方でヒトの情緒は、生後3ヶ月くらいまでに大きく育つと言われていています。母親の胸に暖かく抱かれた記憶、母親の優しい声、柔らかな笑顔、「守られている」という安心感は、こどもの情緒的な安定をもたらします。逆に母親の塞ぎがちな心、養育不安は母親の表情を曇らせ、こどもに不安を与えてしまうかもしれません。母子の安定した愛着行動は、こどもの「こころの発達」に大きな影響があると思います。これを支えるのは、父親であり、家族であると思います。

発達障害のあるこどもは、もともと夜泣きが激しいなど、育てにくいと感じられるお母さんも多く、そんな不安なお母さん達を家族で支えてあげること、母親を孤立させないことでこどものそのような特性も緩和されてくると思います。